地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌

# **企公立南丹病院**

2016.7 Summer 夏号

Nantan General Hospital



#### 平成28年熊本地震における公立南丹病院の災害支援に寄せて

南丹二次医療圏 (二市一町) の災害拠点病院である当院に厚生労働省の認定を受けた日本 DMAT (災害派遣医療チーム) が結成されてから、今年で10年になります。当院では平成23年3月の東日本大震災での、いわて花巻空港におけるSCU (臨時医療施設) 活動と、平成25年8月の福知山花火大会露店爆発事故での転院搬送活動の二つの派遣実績があります。4月14日21時26分の震度7の地震発生直後、厚生労働省医政局から待機要請を受け当院の救急車に医療資機材を搭載して出発準備を行いました。待機解除となり荷物を降ろしたのは、すでに15日に日付が変わっておりました。もちろん翌日の本震後に早朝から同じ作業を行っています。われわれの熊本での活動は京都新聞の丹波版で紹介され、多くの患者さんに労をねぎらっていただきました。

幸いこれまで南丹医療圏では局地災害は起こっておりませんが、もしもの時には当院を拠点病院として医療活動をおこなうべく、平素から地域の医師会の先生がたや医療・福祉施設のスタッフの皆さん、行政・消防・警察の皆さんがたとの太いパイプを大切にし、地域住民の安心・安全のために、院内の体制をつねに更新していきたいと思います。毎年各地で行なわれている、市町主催の災害訓練で緑の服の隊員を見かけたら気軽にお声かけください。

(日本DMAT隊員No615、京都府地域災害医療コーディネーター、副院長 計良 夏哉)

臨床研修指定病院 地域がん診療病院 救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院 へき地医療拠点病院 第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター 京都府地域リハビリテーション支援センター エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院 地域災害医療センター DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター

#### 公立南丹病院

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地 TEL 0771-42-2510 代 FAX 0771-42-2096 http://www.nantanhosp.or.jp





#### 公立南丹病院広報誌

#### 病院の理念

公立南丹病院は、この地域の住民 の生命健康を守る最終拠点病院で ある。このことを病院職員は深く認 識し、患者さんの権利を守り、患者 さん中心の医療を行い、患者さんか ら愛され信頼される病院をめざす。

#### 患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、 十分な説明と合意に基づいた医療を 行います。

- 1. 説明を受ける権利
- 2. 治療を選択する権利
- 3.情報を知る権利
- 4. 個人匿報の保護を受ける権利
- 5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
- 6. 説明を理解するまで問う責務
- 7. 病院での規則に従う責務

2016.7 Vol.30 夏号

#### CONTENTS

0011221120
■夏の思い出
■平成28年熊本地震における
<b>DMAT活動を終えて</b> ②
■診療科紹介-呼吸器内科 ③
■診療科紹介 - 肝臓内科 ④
■知って得するおくすり手帳の活用法 … ④
■働きはじめて ······ ⑤
■公立南丹看護専門学校
■入院準備センターが
リニューアルしました
■「心不全ケアチーム」を立ち上げました… ⑦
■「腎臓病教室」を始めました ⑧
■新生リハビリテーション科 ⑧
■近隣の連携医療機関の先生方 ⑨
おくざわ眼科医院
吉田医院
■南丹病院 訪問看護ステーション ⑩
■看護職就職・就学合同フェア 2016 に
参加して
■平成28年度 オープンキャンパス・
学校見学会のお知らせ ⑩
■お知らせ
■看護師・助産師募集
■炉佳巛⇒

## 夏の思い出

## 院長 辰巴 哲也

今年も若葉が冴える新緑の季節が訪れ、5月初めから夏日のような蒸し暑い日が続いています。6月に入り暑さとともに、いよいよ梅雨の季節となってまいりました。病院の周りの地域でも田植えがほぼ一段落し、稲の美しい緑が爽やかな田園風景として目を和ませてくれています。

平成28年4月に発生した熊本地震では多くの方々が被災され、未だに不自由な生活を余儀なくされている方も多くいらっしゃいます。心からのお見舞いを申し上げます。当院からもDMAT隊が素早く出動し、余震が続く中で2日間の現地活動を行っ

てくれました。平成23年の東日本大震災の記憶も消えない中、日本はやはり 地震の多い国であることを痛感します。京都府災害拠点病院として地域の皆様 にお役に立てるように、日頃からの訓練と準備を怠らないようにしたいと考え ています。

さて、梅雨があけると今年も新しい夏が訪れます。夏の行事には天神祭や祇園祭に代表される祭礼や、七夕、花火大会、お盆やお墓参りなどがあり、また子供たちの夏休みとも重なり、誰もが家族と過ごされた夏の楽しい記憶をお持ちかと思います。私は海が好きで、娘がまだ幼かったころは、毎年のように白浜や沖縄の海へ家族旅行をしました。ボートに乗って爽やかな沖縄の海の風に吹かれたり、透き通った海の中できれいな魚たちの泳ぐ姿を見ていると時の経つことさえ忘れ、心が癒される時間を過ごすことができました。楽しい思い出の中でも、ある夏の一夜、家族で出かけた京都の遊園地の思い出が、自分でも不思議なくらい忘れられない記憶として残っています。浴衣を着た娘の手を引き、お化け屋敷に入ったり、金魚すくいをしました。はにかみながら、うれしそうに楽しむ娘とのひと時が、今も心が温まる人生の大切な思い出として蘇ります。多くの幸せとは、日常の生活の中に何気なく存在するのに、それと気づかずに過ぎ去ってしまうものなのでしょうか。

人は皆それぞれにかけがえのない思い出や大切な価値観を持ち生きています。 医療人である私たちはひとりひとりの患者さんの思いに出来るだけ寄り添い、より良い医療を提供できるように努めなければなりません。

4月からは多くの新しい仲間達を迎えました。今月号でご挨拶しています呼吸器内科や肝臓内科の医師や研修医をはじめ、病院は新たなスタッフを迎えながら進化を目指しています。今年の夏過ぎには地域包括ケア病棟を開設できるように準備を進めており、他の病院や診療所とも一層の密接な連携を取り、当医療圏での地域包括ケアシステムを構築していきます。病床再編の荒波は当院だけではなく、日本の多くの地域で生じています。当院が急性期病床から亜急性期・回復期病床を兼ね備えた多機能病院として発展し、また責任と自覚を持ち益々地域の皆様に貢献できる病院となるように職員一丸となり頑張り

ますので、今後ともご協力とご支援を賜りますよう、どうか宜しくお願いいたします。

皆様の夏が今年も楽 しい思い出に満ちたすば らしいものでありますよ うにお祈りしております。



## 平成28年熊本地震におけるDMAT活動を終えて

診療放射線技師(南丹DMAT隊員) 塩貝 光司

4月16日午前1時25分ごろに熊本県熊本地方で発生した震度7の地震に対し、南丹DMATとして2日間活動を行ってきました。DMATは医師、看護師、業務調整員(以下調整員)から構成され、私は調整員に属しています。調整員は「医療行為以外の全てを担当する」と位置づけられており、医師、看護師が医療行為に専念できるよう環境づくりをすることが役割です。厚生労働省から最初の派遣要請(4月16日午前5時50分)があり当院へ向かいました。私は昨年の7月に日本DMAT隊員になったばかりで、こんなにもすぐに出動することになると思ってお



らず初めは気が動転していましたが、調整員の仕事は病院に着いたと同時に始まりました。

持参する医療資機材や食料の準備、交通手段の検討、現地の情報収集など慌しく出動までの時間が過ぎていきました。そして当院を16日の午前11時15分、医師2名(計良副院長、岩田小児外科部長)、看護師(藤阪副看護部長、前田救急部看護師長)、調整員(宅間臨床工学技士長、塩貝診療放射線技師)が救急車1台、公用車1台の陸路で現地へ向けて出発しました。道中においても情報収集が絶え間なく続く中、熊本赤十字病院に設置されたDMAT災害対策本部からの指令で活動は翌日の朝から開始されることになり、出発当日は福岡の甘木に宿泊し翌日の活動に備えました。翌日の早朝から熊本赤十字病院に向かい南丹病院、姫路赤十字病院、宝塚市民病院のDMATの3隊は熊本県の西沿岸部に属する宇土市に派遣がきまり、その中で南丹DMATはリーダーを担当することになりました。私も宅間臨床工学技士長より調整員のリーダーを命じられ、かなりの重圧がのしかかりましたが、与えられたミッションを達成するためにとにかくシンプルに活動することだけを心がけて現場に向かいました。



宇土市に向かう道中は道路が至るところで地割をおこしており通行止めになっている道路も見られました。現地に到着すると救護所で1人の医師がおられ、市の被災状況を聞くことができました。現場の医師によると、断水による排泄物の処理、不眠に悩む被災者が増えてきていること、患者さんに薬を提供できないことに困っているということでした。その医師ほとんど1人で被災後の医療を担っておられ自分の名前をガムテープに書き上着に貼り付けて一切飾らず活動されている姿が本当に印象的でした。

初日は宇土市における有床診療所6箇所と避難所15箇所に対し人数、医療資源、ライフライン、感染状況などの調査を災害対策本部より命じられ、南丹DMATは宇土市役所救護所に活動本部を設置しそこに残って他の2隊を統括しました。活動の最中も余震は度々おこり予断を許さない状況下でしたが、被災地のニーズにできる限り対応し与えられたミッションを達成するため皆で協力し活動を懸命に行い、初日を終えました。

2日目の活動も宇土市に派遣が決まり避難所の2回目の調査を命じられました。この日は山口県DMATと2隊での活動になり私自身も避難所に出向いて自分の目で状況を確認することができました。全ての避難所責任者の方達がこちらの調査に快く応じていただいたおかげで本当にスムーズに活動を行うことができこれをもって2日間の活動を無事に終えることができました。

今回の活動で訓練では体験できない雰囲気やトラブルを経験できました。私自身多くの反省があり今後の課題も見つかりましたが、現地の方々にたくさんの「ありがとう」をいただきほんの少しでも復興の力になれた様に感じています。私たちが活動に専念できたのも家族や病院の方々に快く送り出していただけたおかげです。また病院帰着時には院長、事務局長をはじめ多くのスタッフの方々に出迎えていただけたことに心から感謝を申し上げます。DMATの活動は2日間で終了しましたが被災者がまだまだ過酷な生活を強いられており復興活動が24時間行われている状況は変わりなく続いています。1日でも早く熊本が復興し安心して生活できる日がくることを心から願っています。

## 呼吸器内科

#### Respiratory Medicine

#### 呼吸器内科部長 河野 秀彦



この4月より呼吸器内科医2名を迎え、数年間標榜を閉ざしていた呼吸器内科を再開することができました。ご尽力いただきました京都府立医科大学呼吸器内科、高山浩一教授と当院病院長、辰巳哲也先生に深謝いたします。また昨年度まで当院の呼吸器診療ができたのは各科の先生方のご助力のおかげです。特に呼吸器外科の岩崎 靖先生、放射線科の秋本和美先生、総合内科の小森麻衣先生の御協力なくしてはたちゆかなかったと思います。この場をお借りして御礼申し上げます。

新たに京都第二赤十字病院より平成 17 年卒の伊達 紘二 先生(医長)、京都府立医科大学附属病院より平成 24 年卒 の森本 健司先生(医員)が来られました。まだ数ケ月少し のおつきあいですが、二人とも、シャープな感じ漂う新進気 鋭の呼吸器内科医です。気管支内視鏡検査等の経験も豊富 であり、これから全員でタッグを組んで、より高度な呼吸器 診療をめざしたいと考えています。

呼吸器疾患は年々増加しており、肺がん、喘息、COPD (慢性閉塞性肺疾患)、呼吸器感染症、間質性肺炎と多岐に渡ります。高齢化社会となり2~3人に1人が、がんを経験する時代と言われ、中でも肺がんは日本人に最も多いがんです。しかしこの10数年間の医学の進歩により、抗がん剤が効かない患者さんにも奏功するような分子標的治療ができるようになりました。治療選択肢が増え、患者さんの年齢、状態やがんの質により、オーダーメイド治療を行える時代

に向かいつつあります。肺がんの 予後が厳しい理由の一つに骨や 脳への転移が多いことがあり、こ れらは疼痛などのシビアな症状 を呈し、患者さんの QOL (生活の 質)を損なうものです。当院でも 昨年度からこれらに対し放射線 治療が行えるようになり、手術、 薬物療法、放射線療法の三本柱が そろい、いかなる状態の肺がん患 者さんにも寄り添えることがで きるようになりました。こうした 日進月歩の肺がん診療に遅れな いようにし、患者さんに最新の治 療をご提供できるよう日々努力 していく所存です。

呼吸器内科の診療は火曜日以外におこなっております。外来以外の時間でも救急番の先生方と

連絡しあい、随時対応させていただいています。

気管支鏡検査は患者さんにとって苦痛度の高い検査ですが、少量の鎮静剤を使用し、苦痛度を下げつつ、同時に安全性も確保しながら行える方向を目指しています。またどうしても上記検査で診断がつかない症例に関しては放射線科とタイアップしてCTガイド下生検を行っております。呼吸器外科との呼吸器カンファレンスを若い研修医の先生も交え毎週行い、肺がんの手術を受けられる患者さんを中心に、症例検討をしております。

呼吸器疾患の患者さんはこれからも増えていくことが予想され、人員が増えたとはいえ当院の呼吸器内科だけですべて対応するのは不可能であり、かつて当院呼吸器内科を担われていた平田 正弘先生はじめ近隣の開業医の先生方との連携もより一層すすめていきたいと考えております。

肺炎は日々の診療で最も多く遭遇する内科的疾患の一つです。現代では肺炎は治る病気とも言われますが、高齢の方の肺炎は致死的になることも少なくありません。生命にかかわる疾患と向き合いプレッシャーを受けることもしばしばあります。肺炎の一つである結核の患者さんも減っている印象は少なく、当院でも結核病棟に入院されている患者さんが常におられる状況です。京都府内での結核病棟を有する病院が少なくなってきていることもあり、結核治療に対しての中核的な役割も求められていますが、マンパワーで立ち向かいたいと思っています。

## 肝臓内科

## Hepatology

#### 肝臓内科部長 光吉 博則



平成28年4月から公立 南丹病院に新設された肝 臓内科の部長に赴任した 光吉博則です。よろしくお 願いします。3月まで京都 府立医科大学附属病院消 化器内科に勤務していま した。日本内科学会認定 総合内科専門医、日本肝

臓学会認定肝臓専門医、日本消化器病学会認定専門医などの資格を取得しています。当院では以前にも肝臓専門医が勤務されていましたが、転勤のためにしばらく不在の状態でした。南丹市近郊にお住いの患者さんにはご不便だったと思いますが、これを機会に地域住民の皆様のご期待に応えるべく精進してまいります。毎週金曜日が外来診療日です。肝疾患のことであればどんなことでもお気軽にご相談ください。

肝疾患の診療で著しく進歩したものの一つにB型肝炎やC型肝炎の治療があげられます。これまでのウイルス性肝炎の治療にはインターフェロン注射が欠かせませんでしたが、副作用が強いために高齢の患者さんでは治療が困難でした。しかし、医学の進歩により副作用が少ない飲み薬が開発され、9割以上のC型肝炎患者さんが治癒する時代となりました。しかも、投与条件に合えば高齢の患者さんでも治療が可能です。一方、B型肝炎にも副作用が少ない飲み薬が開発されており、治療を続けることで肝硬変や肝臓がんへの進行を予防します。肝疾患は自覚症状が乏しいため、気づかないまま肝硬

変や肝臓がんになっていることも珍しくありません。大 切なことは放置せず、肝臓専門医の適切なアドバイスを 受けることです。副作用のことが心配で治療に悩んで いる方は是非とも肝臓外来でご相談ください。

肝臓内科では肝臓がんの治療も行います。外科手術はもとより、カテーテル治療やラジオ波焼灼療法などの内科的治療も積極的に推進し、個々の患者さんに適した個別の治療を提供することができます。肝臓がんの治療のために、これまで遠方の医療機関へ行かなければならなかった患者さんも、自宅に近い当病院で治療が受けられるようにして行きたいと考えています。

肝臓がんの原因はウイルス性肝炎がほとんどです。ところが、最近ではウイルス性肝炎がなくても肝臓がんになる患者さんが増えています。その原因の一つに、生活習慣の変化による脂肪肝の増加が考えられています。肝臓は生活習慣の変化を反映する臓器です。脂肪分をたくさん含む食事をとり、体を動かす機会が減ると脂肪肝になります。多くの脂肪肝は安定した状態を保ちますが、一部は肝硬変や肝臓がんへ進行することが分かっています。

世界中で脂肪肝の人口が増え続けているため、予後の悪い脂肪肝(「非アルコール性脂肪肝炎=NASH」と呼びます)も増えています。血液検査や腹部超音波検査などで脂肪肝の程度がわかります。必要があれば肝臓の組織検査など精密検査も行います。脂肪肝の予防のためには定期的な検査や生活指導が不可欠です。健康診断などで脂肪肝と言われた方は、甘く見ないでご相談ください。

#### ☑ 知って得するおくすり手帳の活用法

「おくすり手帳」は、患者さんと医療機関、薬局との間の大切な"連絡帳"となります。

- ●入院時にそれまで飲んでいる薬・アレルギーなどが分かれば、病院のスタッフにとっても重要な情報となり、より安全にかつ効果的に治療がスタートできます。
- ②他の医療機関からのお薬との飲み合わせや重なって飲んでいないか確認し、副作用のリスクなどを減らします。
- ❸ご自身が飲んでいるお薬を1冊にまとめて活用していただくことが重要です。
- **④**災害・事故・急変などの緊急時にも、必ず治療の助けになりますので常に携帯しましょう。
- ⑤4月から同じ薬局におくすり手帳をもっていくことで、医療費の負担が減らせることもあります。詳しくはかかりつけの薬局でお尋ね下さい。

薬の事をよく知り、正しく使って安全な治療が受けられるよう、何よりご自身の受けておられる薬物療法を正確に伝達する最良のツールとして、上手くご利用ください。



## 働きはじめて

#### 一年目研修医として働いてみて

4月から公立南丹病院で前期研修医として勤務させていただいている野田佳奈子と申します。豊かな自然に囲まれた南丹市に住み、慣れない仕事に四苦八苦しながらも温かいスタッフの方々から様々なことを学ばせていただき、毎日充実した

日々を送らせていただいています。

4月は神経内科で研修し、実際に医療の現場に参加しなければ分からない一つ一つの仕事の責任の重さを実感し、実力のなさに落ち込むことが多々ありました。しかし、脳梗塞の患者さんが突然の発症に戸惑いながらも懸命に治療とリハビリを続け、笑顔で社会に復帰していく姿を見て、私も心から笑顔になり、もっと力になれたらと楽しく仕事や勉強をすることができています。また、リハビリカ





ンファレンスなどで様々な職種の方々と関わり、正確な診断と治療だけでなく、患者さんの背景や退院後の生活を見据えて最善の治療方針を組み立てること、多職種の方々との連携や情報共有の重要性を学ばせていただき、日々感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ迷惑ばかりかけてしまい、自分の勉強の足りなさ、実力のなさを痛感する日々ですが、少しでも早く皆様のお役に立ち、患者さんの力になれるよう努力していきますのでこれからもよろしくお願いいたします。

#### スタートをきって・・・

4月から看護師として働き始め、不安でいっぱいだった私も、現場での学びや 患者さんとの関わりの中で生じる喜びは多く「看護師になってよかった」と一日一 日を振り返り感じております。日々知識や技術においての未熟さを痛感しながら も、先輩方のご指導のもと自分にできることが一つずつ増える喜びは自身にも繋 がります。免許を与えられたプロとしての自覚を持ち、患者さんと心から向き合う ことを忘れず、一人前の看護師になれるようこれからも精進していきたいと思い ます。

看護師 新免 伽奈子



#### 1つでも多くの経験をしていきたい!

診療放射線技師 城下 沙也香

診療放射線技師として4月に当院に入職し、現在は技師業務の中で最も基本である一般撮影に従事しています。

日常業務がスムーズに行えるよう教科書でポジショニングの知識を学習していますが、実際の業務は1枚の写真を撮るまでの患者さんの誘導など教科書では学習しきれないことが多く悪戦苦闘の毎日です。

不安で何に取り組むにも躊躇してしまいますが、そんな時こそ少し勇気を出して何か1つでも多くの事を経験しようと心がけるようにしています。加えて、経験豊富な先輩方が教科書には載っていない多くの知識や技術を教えてくださり、4月当初は撮影できるオーダーがほんのわずかでしたが、現在は大半のオーダーを撮影できるようになりました。



今後は一般撮影だけでなくCT、MRI等の業務を担当していくことになりますが、どの分野においても向上 心を持って従事していきたいと思います。

まだまだ未熟者で迷惑をかけてしまいますが、今の自分に出来る最大限の事を全力で取り組み、一日でも早く戦力となれるよう精一杯努力していきたいと思います。今後も、笑顔と挨拶を忘れず仕事をしていきたいと思いますので、ご指導のほど宜しくお願い致します。

## 公立南丹看護専門学校

#### 薬物乱用防止講習会に参加して

1年生 末次 真由美

今回薬物についての講習会を受け、薬物は脳関門を通り抜けるため、脳から全身に 行きわたるのが速いと新たに学びました。依存性、耐性、再燃現象(フラッシュバック) といった中枢神経で起こる症状の中で、再燃現象が特に問題だと思いました。薬物の 注射や吸引を止めても、ある日突然症状が再び出るといった点から、一度薬物に手を 出すと一生付き合わなければならないんだと学びました。違法薬物がこの世からなく なれば良いと思います。





#### 防災訓練に参加して

園部消防署八木出張所の方々のご指導のもと防災訓練を行うことができました。私 たち13期生は2度目の防災訓練への参加となりますが、改めて防災訓練を行う目的を 考えることができ、災害から自身・周囲の人を守る術を身に付けることができました。5 年前の東日本大震災、今年4月の熊本地震を诵して災害の恐ろしさを改めて感じたか らこそ、自身はもちろん周りの人の命も災害から守れるように今回の防災訓練で体験し、 学んだことを忘れないようにしていきたいです。







## 入院準備センターが リニューアルしました

平成27年4月に開設した入院準備センターが本館1階へ移動しました。今まで来室にご迷惑をおかけしておりましたが、1階に移動となり、ご利用に便利になりました。室内も広がり、同時に3カ所で対応が可能になりました。

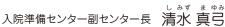
当センターでは対象となるクリニカルパスでの入院予定患者さんに対して多職種が関わり入院前に必要な検査や説明、問診をすることで外来から入院への継続した診療・看護をおこなっています。



昨年1年間で対象クリニカルパスは3疾患から10疾患、診療科は6診療科に増え、センターを利用いただいた患者数

は、492名になりました。開設時より、利用されたみなさま方にアンケートのご協力をいただいており頂戴した意見を参考にサービスの改善を行い患者満足度の向上をはかってきました。

今後も対象クリニカルパスの拡大を目標にしながら、患者サービスのさらなる充実をめ ざしセンタースタッフ一同で取り組んでいきます。





## 「心不全ケアチーム」を立ち上げました

理学療法士 谷本 篤紀

平成26年11月から当院で心臓リハビリテーション(心リハ)を開始して、はや1年半が経過しました。心リハの目標は「心臓や血管の病気を抱える患者さんのQOL(生活の質)と長期予後の改善」です。長期にわたり継続的に心リハを行うことで、健康を維持して心血管病の再発を防ぐことができます。さらに心リハとは運動療法のみならず、生活指導、栄養指導、服薬指導

など多岐にわたる患者支援プログラムを含むもので、関連多職種の 介入が不可欠です。

そこで今年度から多職種協働による「心不全ケアチーム」を立ち上げました。チームは医師、看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師から構成されています。当面の取り組みとしては毎月第3火曜日の午後にハートセミナー(心不全勉強会)を予定しています。第1回目を4月19日に開催しました。当日は患者さんやそのご家族を合わせた25名の参加があり、大変ご好評をいただきました。

スタッフ一同今後もこの会を通して、南丹地域における心血管病 患者さんの健康増進のお役に立てればと考えております。ハートセミ ナーは患者さんに限らずどなたでも参加自由です。ご家族やご友人 お誘いの上、ふるってご参加ください。



第1回ハートセミナーの様子



ハートセミナーのポスター

## 「腎臓病教室」を始めました

管理栄養士 今井 基貴

腎臓病患者は年々増加傾向にありますが、腎臓病について学べる場は多くありません。そこで木村腎センター部長兼腎臓内科副部長と相談し、腎臓病の進行を抑え、透析導入時期を遅らせることを目的に平成28年3月2日に第1回腎臓病教室を開催しました。

当日は、木村医師と森山管理栄養士が講師を務め、腎臓と高血圧についての話や腎臓病の食事の基本についてお話しまし

た。ご家族も含めると36名もの方に参加いただき、また参加された皆さんは熱心に受講されておりました。アンケート結果から「参加して良かった」との声を多数いただき、腎臓病教室を企画して良かったと感じることができました。

今年度は、腎臓病教室を3回開催する予定としております。これからもみなさんに楽しく学んでいただける教室を目指し企画していきますので、興味のある方はぜひご参加ください。次回は7月6日(水)15時から開催予定となっております。



## 新生リハビリテーション科

リハビリテーション科副部長(理学療法士) 川辺 康司

今年の4月にリハビリテーション科は13人の新採用職員を迎え入れ理学療法士は21人、作業療法士は8人、言語聴覚士は4人となりました。昨年12月に回復期リハビリテーション(以下回リハ)病棟を開設しましたが、理学療法士・作業療法士の不足から回リハ病棟の入院患者数を30人に制限してきました。療法士不足を解消するために例年にはない大幅な増員を行い、回リハ病棟を担当する療法士は6人から13人になりました。今後はより多くの患者さんの自宅復帰のお手伝いが出来ればと考えております。またリハビリ実施の増加も今年度は目標にしています。

6月には「回復期リハビリテーション病棟入院料2」の施設基準を取りました。今後は更に回りハ病棟の質の向上を目指していきたいと思います。当院の回りハ病棟を開設する以前は患者さんに京都市内の回りハ病院へ転院していただき、患者さんとそのご家族には遠方に面会に行くなどのご苦労をかけていたことと思います。今後は病気や怪我などで入院されても、住み慣れたこの地域で急性期・回復期・生活期のリハビリを受けることで、住民のみなさんが安心して暮らしていけるような体制作りを充実させていきたいと思います。

もう一つ今年の大きな変化としましては、リハビリテーション専門医の診察(入院患者さんのみ)が週に2回開始されたことです。これは主に内科・外科の患者さんの診察を行い専門医がリハビリの処方を行います。そうすることでリハビリの質の向上にも繋がります。平成26年10月、京都府立医科大学にリハビリテーション医学教室が開設され、今後はリハビリテーションを専攻する医師の派遣も予定されており、今後ますます医師と療法士の連携のとれたリハビリテーションの提供が充実していきます。

これらリハビリテーションの質の向上により、一人でも多くの患者さんに元気になっていただくことを願っています。



## 近隣の連携医療機関の先生方

「心機一転」

おくざわ眼科医院院長 奥沢 正紀

亀岡市大井町に昭和59年父、奥沢 康正が開院し 平成10年から私が引き継ぎました。平成25年10月 並河地区の区画整理事業に伴い立ち退きを余儀なく され、並河駅前のマンションに一時移転しております。 当初予定では1年で戻る計画でしたが、約3年間昇り のエスカレーターしかない足場の悪いマンションで駐 車場も少なく患者さまにはご迷惑をおかけしておりま した。

この度7月に元の場所にて開院すべく現在急ピッチで建築中です。(ただ隣接する道路の工事が滞っており建物以外の駐車場、外構部分全ての工事が完了するまでの期間は未定です。駐車スペースは十分ありますが一部舗装されておらず、地面に高低差がある部分ができてしまいます。)6月中旬から末にかけて引越作業のため休診させて頂きます。

この間、患者さまはじめ皆様にご迷惑をお掛けしますことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

南丹病院の職員の方々には常日頃からこの厚顔無 恥な私のお願いを快く聞いて頂き、先生方にはご高 診ご教示頂いて本当に感謝致しております。未だに読 めない手書きの紹介状で申し訳ございません。今後 はもう少し時代に合ったツールを使い、効率の良い診 療体系を築きたいと考えております。またこれから新 しい医院で心機一転、もう一度原点に戻って守備範 囲をわきまえたかかりつけの眼科医を目指して地域医 療へ貢献できればと考えております。今後も何かとご 迷惑をお掛けするとは思いますが何卒宜しくお願い申 し上げます。



#### 「在宅医療と連携し

吉田医院

急に迫られ、父を引き継ぎ開業して約30年、今以て 駆け出しの一兵卒を自認している小生が、今日まで何と か地域医療を続けてこられたのも、医師会、とくに南 丹病院の先生方の厚いご支援のおかげであり感謝申し 上げます。

開業当時はまだ介護施設等もなく在宅で療養されている方がほとんどで、午後往診に出向くことが多かった時代です。ある大雪の日、山間地のため救急車も入れず往診の要請を受けたものの、徒歩で行くより方法はなく膝まで雪に埋もれながら1時間程かかってやっとの思いで患家に辿り着いた…そんな経験もし、思い起こせば、当時は往診の延長で在宅医療を行っていた様に思います。

1990年から2000年の間にいわゆる地域医療の概念がガラッと変わり、今日の高齢化の進展に伴う人口構造・疾病構造の変化・医療需要の変化を実感します。今後更に独居や高齢世帯が増加することが明らかな状況で、突然の疾病や転倒等により生活そのものが危機的となり医療の提供もままならないという在宅でのピンチの時、多職種連携とりわけ病診連携の必要性を強く感じます。

南丹病院が地域の拠点病院として在宅医療のバック アップを担って頂いておりますことを大変心強く思い、 同時に「顔の見える連携」さらには、病院と開業医とい う立場を超えたお互いの信頼関係の構築を願って止み ません。

貴院のますますのご発展を祈り、今後もご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

広報誌寄稿の駄文とすることをお許し願います。



## 公立南丹病院 訪問看護ステーション 平成28年4月1日より、指定訪問看護ステーションとして新たにスタートしました。

センター長 森﨑 春美

医療を取り巻く環境は大きく変化しています。南丹医療圏でも高齢化が進んでおり、急性期の治療やリハビリを終えても、入院治療だけでは医療が完結できない現状があります。私たち訪問看護ステーションの看護師は、地域住民の皆様がご家族とともに、安心して住み慣れたご自宅で療養生活を継続していただけるため、また何かしらの医療処置などがあり退院が不安な方にも、退院前よりご自宅での療養生活を円滑に移行できるためのサポートをしていきたいと考えます。

療養上の困りごと等がありましたら、病棟の看護師や地域医療連携 室を通じて、もしくは直接のご相談でお気軽にお声かけください。開設



して間もなく、まだまだ不慣れであり関係機関の皆様にもお力をお借りすることが多いかと思いますが当院の理念に沿い、地域 住民の皆様に信頼される訪問看護ステーションとなれるよう研鑽してまいります。これからよろしくお願いしたします。

## 看護職就職・就学合同フェア2016に参加して

## 副看護部長 増谷 照代



平成28年5月14日(土)京都府看護協会主催の「看護職就職・ 就学合同フェア2016」が京都市勧業館みやこめっせで開催されました。今年は京都府下の50病院および看護学校20施設が参加しました。自分にあったやりがいのある働きやすい職場を見つけたいという看護学生をはじめ、求職中の方、中学生・高校生やその保護者等多数の来場がありました。看護に対する意欲を持ちライフスタイルも大切に、長く働き続けるスタッフを探したいという施設側とのお互いの願いがつながる出逢いの場です。これから「看護のしごと」をめざす方々へ未来に向けた人材確保につなげる取り組みが毎年されています。

当院、公立南丹看護専門学校も毎年参加しています。南丹医療圏の中心的役割を担う当院の特徴や体制、就職後の教育体制や看護師

としてのやりがい、福利厚生などについて伝えました。また今年度は看護部が主となり作成した DVD により日頃の南丹病院の様子や新人看護師育成の様子、働いている看護師の声を伝えさせていただきました。

現在、当院は看護師不足の状況が続いています。患者さんに心温まる看護の提供ができるようチームワークを大切に職員一同取り組んでいますが、看護の質を高めるためには多くの看護師が必要です。地域医療の充実、発展のために一緒に働いてくれる仲間を募集しています。病院見学・体験なども随時行っていますのでお気軽に南丹病院総務課人事係までご連絡下さい。お待ちしております。

## 平成28年度 オープンキャンパス・学校見学会のお知らせ

公立南丹看護専門学校では、看護師を目指す人々に看護学校について、知っていただくことを目的とし、オープンキャンパス・学校見学会を行っております。申し込み方法・申し込み期間については、ホームページ等でお知らせしています。

#### ●オープンキャンパス

日時: 平成28年8月5日(金) 13:00~16:00 内容: 学校紹介·学校内見学·体験学習·個別相談など

#### ●学校見学会

日時: 平成28年8月27日(土) 10:00~11:00 平成28年10月29日(土) 10:00~11:00

内容: 学校紹介·学校内見学·個別相談など



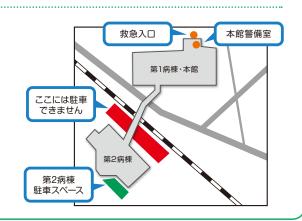
## 动知与世

土・日・祝日のお見舞い・面会の際に、本館警備室での入館手続きが必要となりました。

平成28年4月より、警備上の必要から土、日、祝日のお見舞い・面会をされる方に「許可書」を発行することになりました。本館救急入口から入ってすぐ左の本館警備室で「面会申込書」をご記入の上、「許可証」をお受けとり下さい。「許可証」を着用して当該病棟のナースステーションまでお越しいただき、看護師に面会の旨を告げて下さい。

## 第2病棟連絡橋下の駐車場の 閉鎖について

平成28年4月より、八木駅西土地区画整備事業の工事実施に伴い、第2病棟連絡橋下の駐車場は使用できません。第2病棟正面玄関奥の駐車場のみ利用可能となります。ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。



## 看護師・助産師募集(正職員・臨時職員)

正職員·臨時職員共に院内保育所の利用可。 寮(正職員のみ) 利用可(月額10,480円)

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地 公立南丹病院 総務課人事係 TEL 0771-42-2510(代)まで 詳しくは公立南丹病院ホームページをご覧下さい。

http://www.nantanhosp.or.jp



#### 編集後記

熊本などで起こった今回の一連の地震は、震度だけでなく余震回数も過去最大級の規模になっています。当院も DMAT が派遣され現地で活躍しました。私も私にできることをしようと思います。さて、広報誌も今回で第30号を発行することとなりました。これからも皆様に楽しんでいただけるものを、40号、50号と発行していけるように努めて参りますので、引き続きご愛読をよろしくお願いいたします。

広報委員 YT



発行:公立南丹病院広報委員会